ホクコビルダー®プリンス®グレータム®粒剤

■種 類 名：フィプロニル・チフルザミド・プロベナゾール粒剤
■有効成分：フィプロニル----------1.0%
チフルザミド----------3.0%
プロベナゾール----------10.0%
■化管法指定物質：フィプロニル［第１種］ ----------1.0%
チフルザミド［第１種］ ----------3.0%
プロベナゾール［第１種］ ----------10.0%
プリンス®＝BASF社の登録商標。

■登録番号：第21018号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2003.02.25
■性　　状：類白色細粒
■有効年限：3年
■包　　装：1kg×12袋
10 kg×1袋(地域限定)

【特長】

- プロベナゾールを西日本型のいもち病発生にあわせ長期残効製剤としたビルダーと、紋枯病防除剤グレータム、殺虫剤プリンスの３種混合箱処理剤。
- 育苗箱処理により、いもち病から白葉枯病、紋枯病、ウンカ類、ニカメイチュウ、コブノメイガ等、本田で発生する病害虫に対し、長期間、同時防除が可能である。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イネツトムシ	育苗箱 （30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ） １箱当り 50g	緑化期～移植当日	１回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	１回	３回以内（移植時までの処理は１回以内、本田では２回以内）	２回以内（移植時までの処理は１回以内）
	白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネドロオイムシ イネミズゾウムシ イネヒメハモグリバエ イネクロカメムシ イネアザミウマ		移植３日前～移植当日					
	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネドロオイムシ イネミズゾウムシ イネヒメハモグリバエ イネクロカメムシ イネアザミウマ ウンカ類 イネツトムシ コブノメイガ ニカメイチュウ	高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約５ﾘｯﾄﾙ）１箱当り 50～100g）					

【効果・薬害等の注意】

- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害が生じる場合があるので、散布直前の灌水はさけること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう注意すること。
- 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深３～５cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。

- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田での使用はさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるので、所定の使用時期、使用方法を守ること。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- 育苗箱（３０×６０×３㎝、使用土壌約５㍑）１箱当りに乾籾として２００から３００g 程度を高密度には種する場合は、１０a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/１０a までとなるよう、育苗箱１箱当りの薬量を５０から１００g までの範囲で調整すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

【安全使用上の注意】

- ❖ フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
  作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
  水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
  散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。